

[口頭発表]

「3Mix-MPの効果を挙げるには」

豊島 敦哉 Atsuya TOYOSHIMA

トヨシマ歯科口腔外科 〒618-0012 大阪府三島郡島本町高浜 3-1-4-205

LSTR 感染根管治療ではまず無菌化を図る。つまり疾病の原因が細菌性であり「病巣殺菌が是非必要である」という診断の下、3Mix-MPを使用するのだが、その効果をもっとも如実に実感出来る治療として、痛みを伴う急性の症例で、炎症を長引かせず早急に、かつその治療に痛みを伴わない方法（切開、拔牙等無）で治療する事が可能な唯一の方法である。しかし効果を発揮させるには約束事項と、治療手順（テキスト等参）を厳守する事は当然ながら、単に3Mix-MPを貼薬するという考えではデリバリー効果が十分に発揮されず、早期の効果が出にくい場合がある。そこでデリバリーを担う図1 MPをより浸透させやすくする為の貼薬着座の窩洞形成として、根管口から深さ2mm、直径1mmで窩洞を形成しその部位を12%EDTA+超音波洗浄+10%次亜塩素酸+超音波洗浄で処理を行う事で浸透しやすい環境を整え、3Mix-MPを圧接、密接させる事で浸透させるスピードを更に向上させ早期に病巣まで到達することが出来るようになる。実験として図2 故意に3Mix-MP着座貼薬後圧接せず、仮封材の圧を逃がすよう、綿球をその上に置きキャビトンで仮封。図3は貼薬着座に3Mix-MPをしっかりと象牙細管、根充剤等に圧接させてキャビトン仮封。結果を図4に示す。写5上

圧接無症例-残根状態でフィステル形成、自発痛-動揺-打診痛+。3Mix-MPを圧接無しキャビトンで仮封。2週間フィステル消失せず。写5下 圧接無症例2：歯肉腫脹、自発痛-打診痛+。3Mix-MP圧接無し、キャビトン仮封。2週間後もフィステル消失せず。写6上 圧接症例1：歯肉腫脹、咬合痛+自発痛-。3Mix-MPを圧接、キャビトン仮封しましたところ4日目フィステル消失、打診痛-。写6下 圧接症例2：歯肉が腫脹し自発痛+咬合痛+。補綴物除去後3Mix-MPを圧接、キャビトン仮封。3日目腫脹の消失傾向を認め、自発痛-打診痛が若干残った。1週間後腫脹は面影程度になり、打診痛-。治療開始後10日目全ての症状が完全消失。時によって症状の軽減を見ない場合、図7 好結果を得る必要十分条件を見直し、それもクリア出来ている場合は、図1の貼薬位置の再確認と圧接、密接をもう一度意識して行うことで解決できる場合もあると今回の結果より示唆される。但しSavePulp療法時に使用する場合、効かせたい部位が歯髓なので強く圧接すると刺激を与えてしまうので薬を広げる程度と考える。

(文献)

- 1 星野悦郎, 宅重豊彦: 3Mix-MP法とLSTR療法: 日本歯科評論
- 2 宅重豊彦, 星野悦郎: 3Mix-MP法による感染根管治療成績, 日歯保存誌, 1.41 (5): 970-974, 1998

図1

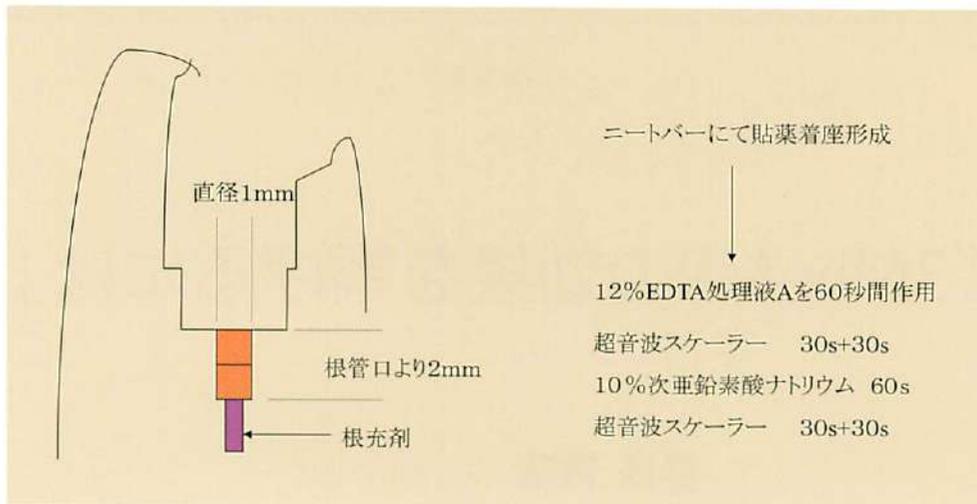


図2

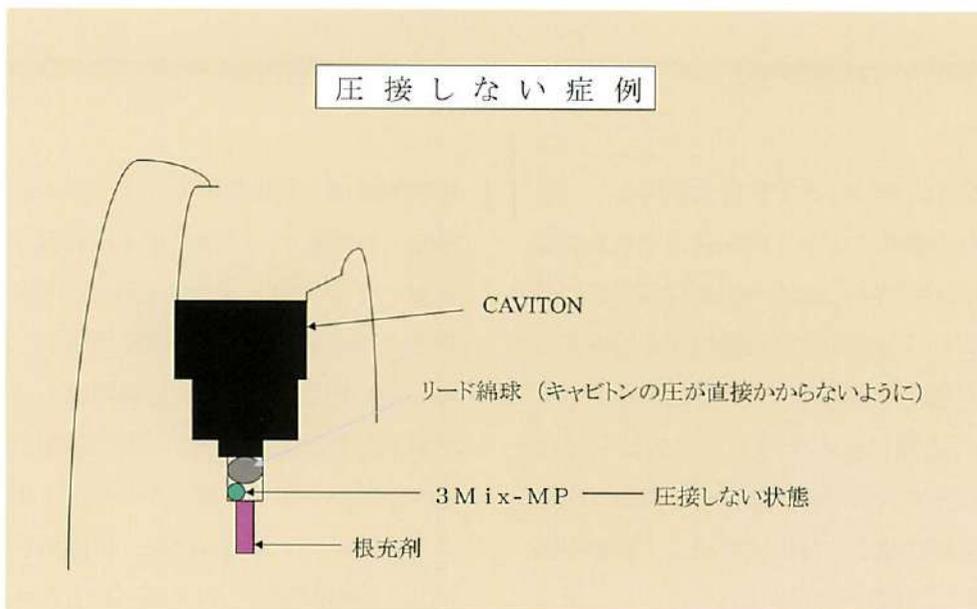
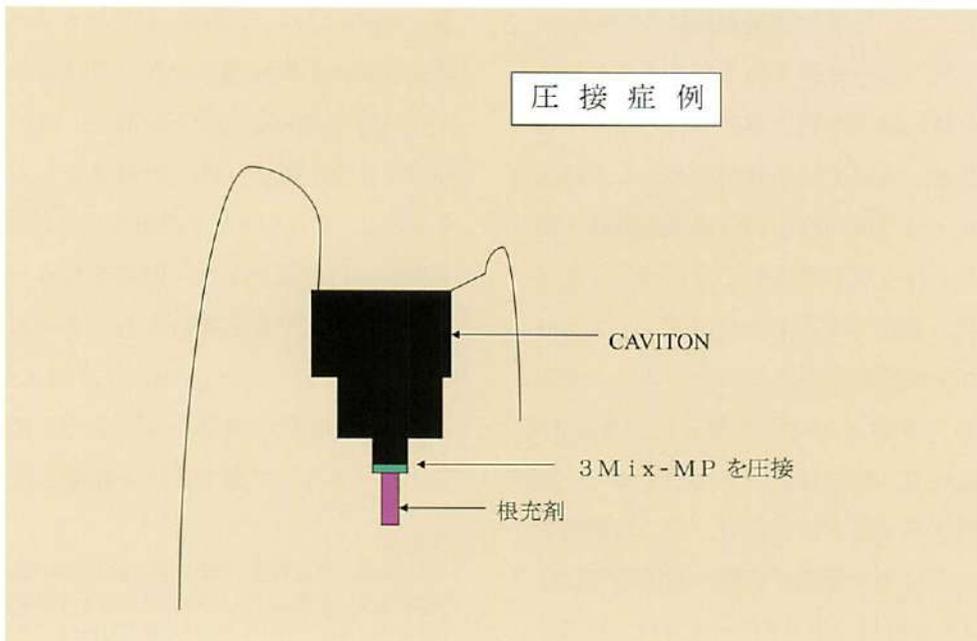


図3



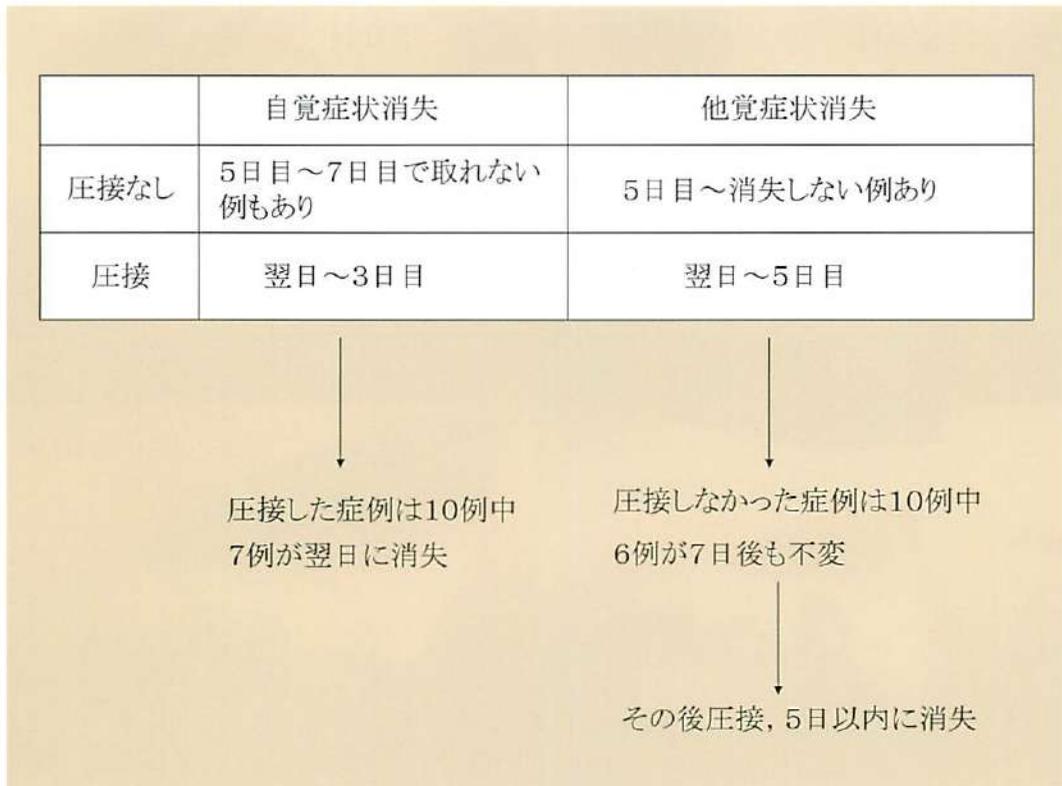
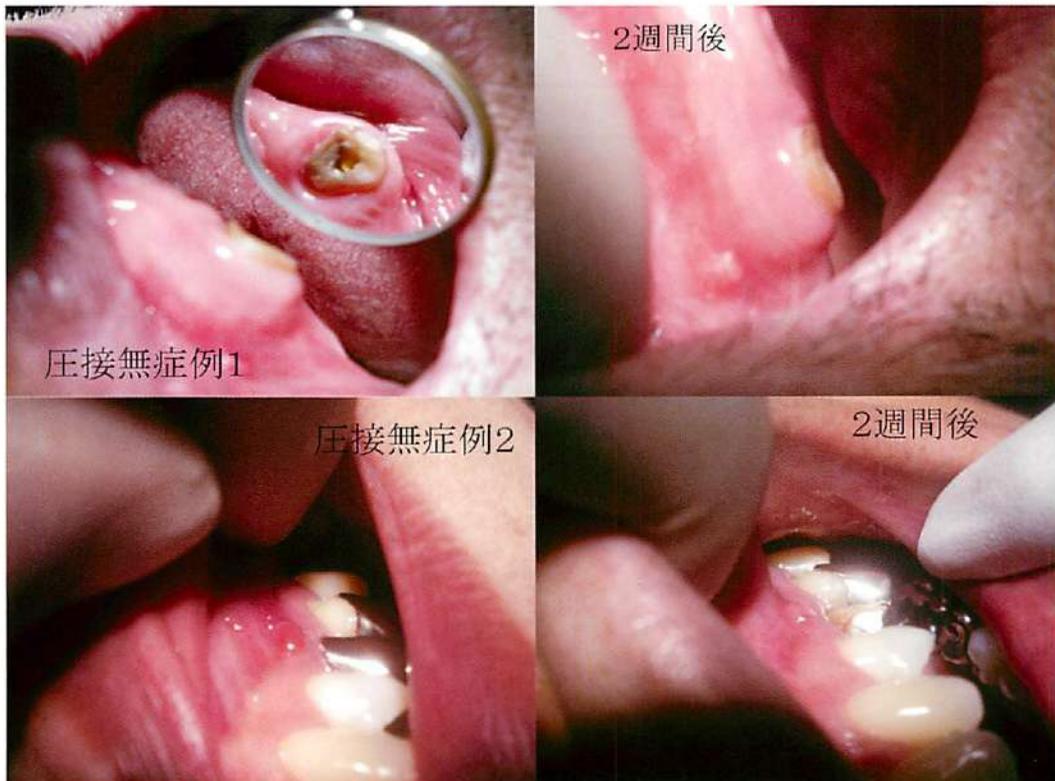


図4



写5



写6

3 M i x - M P の 詳 細 チェック項目

- 1: 薬の新鮮さ, 配合比率.
- 2: 保管容器の密閉度, 除湿剤の状態.
- 3: 冷蔵庫の温度, 湿度.
- 4: 薬の硬さ, 必要量.
- 5: 作業時間, 唾液, 光など.
- 6: 既存の補綴物, 充填物の除去.
- 7: 正しい前処理の術式, 十分な乾燥.
- 8: 正しい仮封材による, 正確な仮封.
- 9: 咬合状態.

↓ OK

3 M i x - M P を 正 しい 位 置 に し っ か り 圧 接 , 密 接 さ せ た か ど う か .

図7